

義務教育学校の設置に関する検討委員会だより ①

東国分中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会

市川市では、「学び」と「育ち」の連続性を大切にした教育を進めるため、小中一貫教育の実施を目的とする義務教育学校の設置を推進しており、平成28年度に義務教育学校となった「塩浜学園」では、児童生徒の成長や教職員の指導面で高い効果が見られています。

このことから、小学校、中学校ともに、学校規模や通学区域などの条件が整う高谷中学校ブロック（高谷中学校・二俣小学校・信篤小学校）及び東国分中学校ブロック（東国分中学校・稲越小学校・曾谷小学校）を対象候補として、義務教育学校の設置に関する検討をはじめました。

検討は、各学校の学校運営協議会の代表で構成する「義務教育学校の設置に関する検討委員会」で進めてまいります。1月30日（木）に第1回検討委員会が開催されましたので、概要をお知らせいたします。

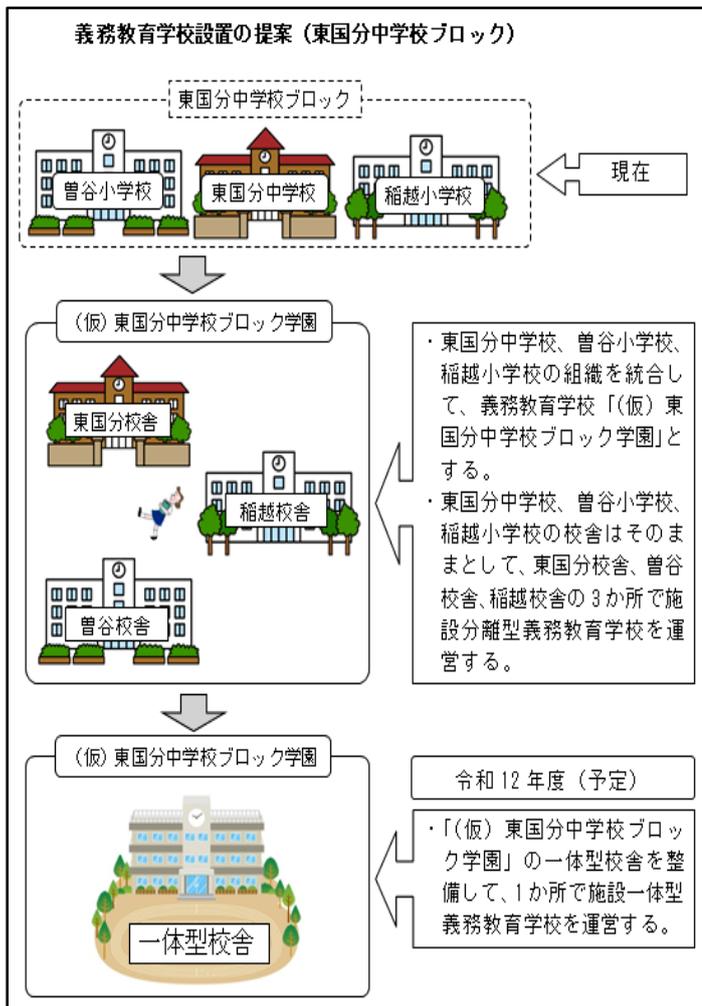
- 1 日時 令和2年1月30日（木） 17時00分～18時30分
- 2 会場 市川市立東国分中学校
- 3 構成
 - ・委員長：大学教授
 - （19名）
 - ・委員：各学校（東国分中・曾谷小・稲越小）の学校運営協議会代表
- 4 内容
 - （1）報告 ・義務教育学校の設置に関する検討委員会について
 - （2）協議 ・義務教育学校の設置に関する提案について
 - ・小中一貫教育及び義務教育学校について
 - ・義務教育学校設置に係る課題の把握について

5 協議の概要

○1回目は、主に小中一貫教育や義務教育学校について、検討委員会全体で共通理解をいたしました。

(1) 義務教育学校設置の提案

(2) 提案の理由



【理由1：小中一貫教育の推進】

- 教育基本法及び学校教育法では、義務教育の目的・目標が定められており、義務教育9年間で児童生徒を育成するという考え方に立って教育が行われています。
- 子どもたちの抽象的な思考力が高まる小学校高学年において、教科担任制の導入等による専科指導の拡充が必要となっています。
- 児童生徒の心身発達が早期化しており、従来であれば中学校段階の指導の特質とされてきたものを、一定程度小学校段階から導入することが必要となっています。
- 新しい環境での学習や生活に移行する中学校進学時に、不登校や生徒指導上の諸問題につながる「中1ギャップ」への対応が求められています。

【理由2：義務教育学校の学校施設】

- 「義務教育学校等の施設計画の推進に関する調査研究（国立教育政策研究所 平成30年）」では、一体型校舎の有効性が明らかになっています。
- このため、学校施設については、一体型校舎において連続性を大切にしたい教育を行うことが重要です。しかし、学校や地域の状況に応じて、当面は、隣接型又は分離型で運営することも考えられます。

施設形態の区分

小・中	小	中	小	中	敷地
施設一体型校舎	施設隣接型校舎	施設分離型校舎	小校舎	中校舎	小校舎

【理由3：義務教育学校の特色（教育課程）】

- 義務教育学校は小中一貫教育の実施を目的とする学校です。修業年限は9年です。
- 小学校段階を前期課程、中学校段階を後期課程に区分しますが、9年間を「4年－3年－2年」など「学年段階の区切り」を柔軟に設定して、発達段階に合わせた指導及び活動を行うことができます。
- 教育課程の特例を市の判断で定めることができるため、子どもの発達段階に即したカリキュラム編成を柔軟に行うことができます。
 - ・質の高い学びを創造する新教科を創設することができます。
 - ・学年及び小・中学校段階の指導内容の入れ替えや移行などを行うことができるため、中学校の指導内容を小学校段階で指導することなどが可能となります。
 - ・小学校低学年からの系統的な学習（外国語教育など）が可能となります。
- 小学校高学年段階からの教科担任制を継続的に実施することができます。

（3）義務教育学校保護者の話（概要）

今日は、私たちがやってきたことを参考にして頂くために話を致します。私には、9年生と3年生の息子がいます。彼らに「塩浜学園はどういう学校か。どういうところにメリットを感じているか。こうあってほしいと考えることはあるか」と聞きましたところ、兄は「6年生から7年生への進級がすごく楽だった。周りは知っている人ばかりで、上下関係のことも安心して進級ができた」ということでした。これは12歳の少年にとってとても大きかったのだと思います。弟は「中学生の大きいお兄さんお姉さんたちとたくさん遊べる。名前と顔を覚えているので、学校に行っていて楽しい」とのことでした。今までやってきたことは、子供を中心に考えると非常に良かったのだと感じることができました。子供達の発達段階に応じた形で、色々なサポートができています。私たちは、実質1年半の中で全ての準備をしなければならず、地域も保護者も教員も、理解度が未熟なために当初の運営には躓きがありました。でも東国分中ブロックは、長期計画の中で進めることができるのでとても良いと思いました。

（4）協議の概要（○：委員長及び委員 ●：事務局）

- 検討委員会の委員は、専門部会として学校運営協議会の代表として来ていますが、会議の報告はそれぞれの学校の運営協議会に戻ってするのでしょうか、どのような形で行えばよいのでしょうか。
- 保護者の皆様、地域の皆様、教職員の皆様には「検討委員会だより」という形で周知をしていきます。
- 教育上、いろいろなメリットがあるということは理解できました。私は地域の代表なので、地域と学校との関わりということでお伺いしたい。地域連携という点で、他に地域との関わりについての事例があればお聞きしたい。
- 教育委員会には次回までに「地域連携の様子やデータをそろえること」「県内や県外の義務教育学校の地域の情報を用意すること」をお願いします。
- 検討委員会は3校から集まり、課題について検討するということですが、その課題というのは校舎を一体型とした場合の課題でしょうか。仮に一体型となった場合に、どういう課題が見えるのかを検討する場ということでしょうか。
- 主な課題は、一体型に伴って出てくる課題ということになります。
- 塩浜学園が小中一貫校となるときに、すごく興味がありました。自分としては小中一貫には大賛成です。なぜかというと、子供達の数が少なくなっている中で、子供が経験をする場所が無くなっているからです。たまたま実践講座を稲越小で行う機会があり、中学校への不安について6年生に話を聞いたところ「すごく不安だ」と答えていました。1年生から6年生まで一度もクラス替えがなく、クラス内の班が変わるだけでとても新鮮だということでした。中学へ上がるのは楽しみな反面、今までそのような経験をしたことがないため、とても不安があるということでした。経験不足のままでは、上下関係等も含め9年間で学べるというのはとても良いことだと思います。ただ、それに対しては色々な課題あるはずなので、検討委員会で課題を出しあって、子供達の不利益になるものをつくらない、そのために検討委員会で悪い部分をたくさん出して、それを地域でどのように補えるかという話し合いをたくさんしていくことが、とても重要だと感じています。
- 私の子供達も稲越小でお世話になりました。1クラスですずっときましたが、子供が中学校に入るときに不安があるとは思っていませんでしたので、「中一ギャップ」の説明を聞いて、そんなに不安があるのかと思いました。1クラスなので、色々なことが体験できるという実感は当時もしましたが、お互いに切磋琢磨するという意味では、小中一貫にした方がメリットは多いのかも知れないと思いました。
- 塩浜学園の成果と課題の中で、学力学習状況調査のグラフがあり、学力の向上は大きな点であると思います。そこで、このグラフについての説明を、次回にもう少ししてください。また、生活習慣の確立については、後期課程では逆の結果となったとの説明がありました。改善が見られていないというのはどうしてなのか、家庭との連携という面での対応について、次回説明をしてください。さらに、組織を整えるのに3年間掛かったという話がありましたが、東国分中ブロックが小中一貫校として進むのであれば、3年間掛けないような方策はどうすればよいのか、せめて2年間にしていこうように、この検討委員会で考えた方がいいと思います。
- 子供のリーダー性についても話が出ましたが、子供達にとってのリーダー性はとても大事なことだと思います。また、中一ギャップを乗り越えることも必要だと思います。世の中にはそういったギャップが成長過程には必ずあり、それを乗り越えていくことも必要だと思います。それを取り除いてしまうということは、そういう経験をどうするかということも必要だと思います。

（5）義務教育学校設置に係る課題の把握

- 児童生徒アンケート及び保護者アンケートを実施し、課題の把握につなげてまいります。